

伝えあう喜びを共有することのできる児童 を育成する外国語活動の工夫

—「のびのびコミュニケーションタイム」を取り入れて—

小学校外国語活動班 大関 久美子(小学校教諭)

児童の実態

- ◆ 英語を使って伝えあう活動に積極的に取り組めない。



ゲーム活動は好きだけど…。
ゆっくり話す時間があれば、英語で伝えてみたい。

「のびのびコミュニケーション
タイム(聞こう)」
・身近な英単語や表現にふれる

慣れる過程
聞いたり繰り返したりして、
音声やリズムに慣れる。

“I want to～.”を使
うと、「～したい」と
伝えられるんだね。

「のびのびコミュニケーション
タイム(聞こう・話そう)」
・教師の思いを聞く
・児童が自主的に話す

生かす過程
学習した表現やジェスチャー
を活用する。

先生の体験談が分
かったよ。自分も
”I want to～.”を使っ
て言えるようになって
きたよ。

「のびのびコミュニケーション
タイム(伝えあおう)」
・児童どうして伝えあう

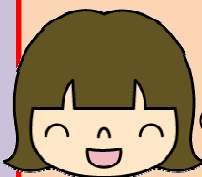
広げる過程
お互いの思いや考えを
伝えあう。

“Why?”と聞かれたか
ら、“Because～.”を
使って答えたよ。お互
いのことが分かって、
うれくなるね。

Dear

君はミウが見たいというのを聞いた時、ぼくは、びっくりしました。
セウシロは、ぼくも見たいです。
グループのヨットにぼくも乗りたいです。
ぼくもエジプトに行きたくくなりました。

From



- 思いを伝えあおうとする態度が育きました。
- お互いを理解する喜びを共有できました。

感想	人数(人)
友達の願いが分かって、楽しかった。	9
友達の意外な面が見えて、面白かった。	9
友達が発表した場所に行ってみたくと思った。	6
初めて知ったことがあって、面白かった。	5
発表は楽しいことが分かった。	3
質問したら、詳しく教えてくれて、嬉しかった。	1
友達はいいな、と思った。	1

表1 振り返りカードの感想(26名・複数回答)

成果

- ・ 授業内に「のびのびコミュニケーションタイム」を取り入れ、活動の時間を十分に設けたことは、英語の音声や表現に慣れることができ、思いを伝えあおうとする態度を育成できました。
- ・ 伝えあう活動は、相手のことを理解する喜びや自分のことを理解してもらえる喜びを相手と共有する活動とすることができました。

課題

- 児童どうしの伝えあい活動の中で、慣れ親しんだ表現の活用度を、より具体的に見取る手だてが必要です。
- ペア活動だけでなく、小グループでの発表や質疑など、新たな伝えあいの形態を取り入れる必要があります。